

メカニズム解明のための底質調査について

【目的】

「底質の状況・現存量等」と「底質から水質への影響量」の把握

【調査内容】

①試料の採取等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月、別添53地点において、直径10cm長さ50cmのコアサンプルを採取。</li> <li>・ 10月、7地点（S1～S4、S6～S8）において、同上試料を採取。</li> <li>・ 採取した試料については、表面の色（L値）、臭い、外観、柱状の様子を記録（写真も）</li> <li>・ 併せて、試料採取地点の水質（DO、CL、水温）について鉛直測定（1mピッチ、湖底+50cm）</li> <li>・ ダイバーが潜水し、採取すること。</li> </ul>
②底質の分析(年代測定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月に採取した7地点（同上）のコアサンプルについて、0.5cm毎に年代測定を行う（想定している方法は、Pb210による方法）。</li> </ul>
③底質の分析(性状、含有量)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7地点（同上）のコアサンプルについて、6深度（年代測定の結果から位置を判断）分の底質について、7項目（TOC、COD、TN、TP、H2S、強熱減量、粒度）を分析（5月、10月）。</li> <li>・ その他の51地点のサンプルについて、1深度（0～2cm）分の底質について、同項目を分析（5月）</li> </ul>
④底質の分析(プランクトン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1地点（S3）のコアサンプルについて、6深度（同上）分の底質について、カロテノイド分析を行う（5月）。（宍道湖については、不要かも）</li> </ul>
⑤間隙水の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7地点（同上）のコアサンプルについて、6深度（同上）分の間隙水について、9項目（NH4、NO3、NO2、PO4、H2S）を分析。</li> </ul>
⑥溶出試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3地点（S1、S3、S6）のコアサンプルについて、9項目（TOC、NH4、NO3、NO2、PO4、H2S）の溶出試験（5月、10月）。</li> <li>・ 1地点あたり、3コアサンプルについて実施。</li> <li>・ 溶存酸素の設定条件は2パターン（酸素あり、酸素なし）</li> <li>・ 水を抜いて、現場ろ過水を入れてから測定を開始。</li> </ul>
⑦沈降	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3地点（S1、S3、S6）について、セジメントラップにより採取した試料（5月、10月）について、5項目（TOC、COD、SS、TN、TP）を測定。</li> </ul>
⑧ベントス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月、別添53地点において、ベントス（シジミ）の個体数を計測。</li> </ul>